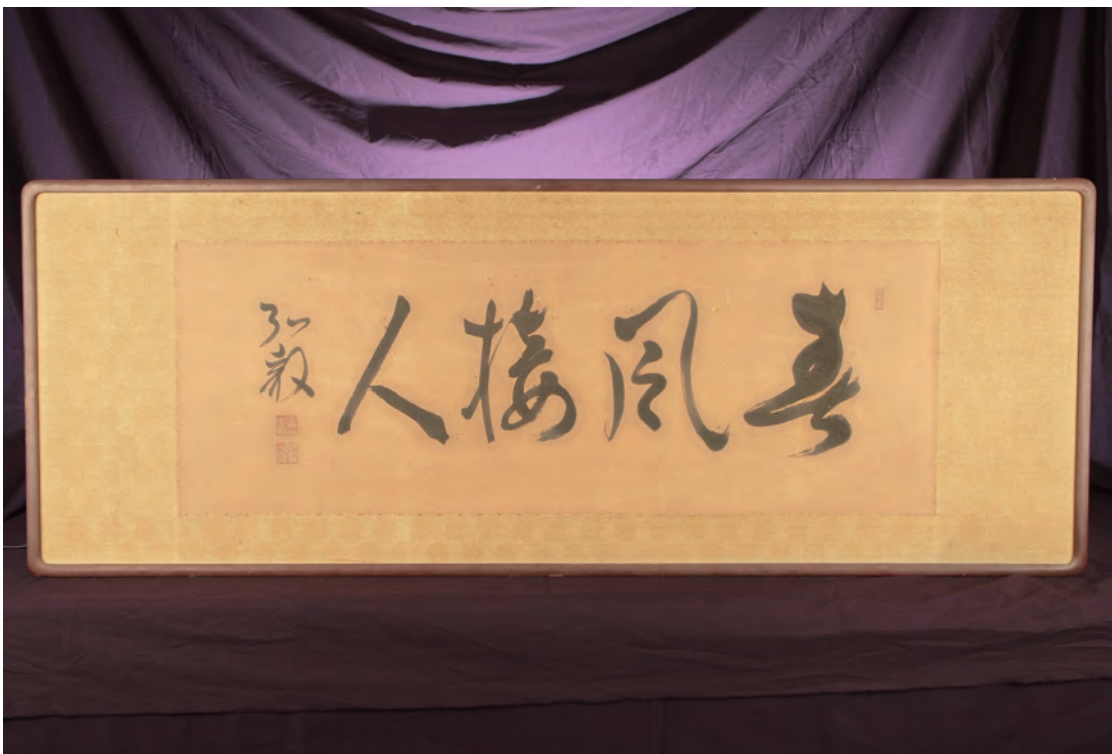




題字：箱島信一書
発行 修猷館同窓会
東京支部事務局

〒185-0034
東京都国分寺市光町2-14-85
(有)バルティール内
FAX 042-573-5060
東京修猷会ホームページアドレス
http://www.shuyu.gr.jp



春風接人

弘毅

(修猷館同窓会館蔵)

以春風接人 以秋霜自肅

春風のなごやかさをもって人に応接し、秋霜のするどさをもって自らを規制する

(出典：『言志四録2言志後録』川上正光全訳注)

講談社〈講談社学術文庫275〉1979)

江戸時代の儒学者・佐藤一斎(1772年〜1859年)が後半生を費やして記した随想録『言志四録』のうち、言志後録からの言葉。佐藤一斎は昌平学問所の儒官として多くの門弟を

指導した。その中には佐久間象山、渡辺華山、横井小楠など幕末期を担った人物達の姿がある。指導者の心構えを綴った本書は西郷隆盛の愛読書としても知られ、多くの政治家やリーダーが座右の書とする。近年では首相就任間もない小泉純一郎氏が国会審議中に『言志四録』の言志晩録にある「三学戒」少くして学べば、則ち壯にして為すことあり 壯にして学べば、則ち老いて衰えず 老いて学べば、則ち死して朽ちず と言及したほか、好きな言葉のひとつとして「春風接人」を挙げている。(4面左下に続く)

修猷館の生みの親



東京修猷会会長
大須賀頼彦
(昭和37年卒)

明けましておめでとうございます。館友の皆さまには、それぞれに思いも新たに新年を迎えることと思います。

昨年6月の総会で、中川勝弘前会長の後を引き継ぎました昭和37年卒の大須賀でございます。

さて、思えば昨年は、NHK連続テレビ小説「花子とアン」に福岡に縁の深い柳原白蓮が登場したり、同じく大河ドラマ「軍師官兵衛」で、福岡藩の藩祖黒田如水の生涯が描かれたりと、久しぶりにTVドラマに熱中した一年でした。

そしてこれは偶然でしょうが、この黒田官兵衛の詳しい伝記を、大正5年に「黒田如水伝」として著した金子堅太郎の伝記が、同じ昨年の一月にミネルヴァ書房より刊行されました。

金子堅太郎は1863年(文久3)に11歳で藩校修猷館に入りますが、修猷館きつての秀才と謳われ、その後、藩命により江戸に遊学、そして1871年(明治4)には旧藩主黒田長博に抜擢されて、黒田家の丸抱えで団琢磨(旧福岡藩士、後の三井財閥総帥)とともにアメリカに留学、ボストンの小学校での初級英語から始めて、ハーバード大学の法科を卒業するまでの8年間、西洋の知識、思想、文化に社交も修得して帰朝します。

帰国後は、伊藤博文の下で大日本帝国憲法の起草、制定に貢献、また日露戦争では米国世論の80%を親日にしたという広報活動や日露講和での奮迅の活躍で、「日露戦争の影の立役者」と称されるなど、明治期日本の発展に多大な功績があったことは周知のとおりです。

そして、我々が忘れてならないのは、金子堅太郎が「修猷館再興の祖」だということです。

1783年(天明3)に黒田藩の藩校として誕生した修猷館は、明治4年の廃藩置県により廃校となっていました。が、アメリカから帰り日本の発展には教育が重要と考えた金子は、黒田長博に修猷館の再興を建白します。薩長や肥

前に後れを取り貧窮にある旧藩士を救うには西洋の教育が必須と考えていた長博は、金子の進言を喜び、資金面での援助を約して修猷館の再興を金子に託します。伊藤博文の秘書官をしていた金子は休暇を利用して帰福し、県令との折衝等に奔走します。その結果、館長教員の給料を含め県の支弁は一切受けず全額黒田家の私財で賄うということ、明治18年に県立修猷館が設立されました。

ところが当の金子は修猷館での講演(昭和11年)で、館長からの「修猷館の生みの親」という紹介に、「私が今日の位置において国家の為に多少貢献することの出来たのは修猷館の教育の結果であって、即ち修猷館は私の生みの親である」と、今自分が在るのも、また修猷館が在るのも全て黒田家のお蔭であるというように話しています。

講演の中で金子は、昔は如水公と長政公の命日には、館長、教員は生徒を引率して黒田家の墓所である崇福寺にお参りをしていただと話しています。私も次回帰福の折にはこの崇福寺と、東京修猷会の生みの親である広田弘毅や緒方竹虎の墓がある聖福寺にお参りしてみようと思っています。

ところで、金子堅太郎を紹介する本はあまり出ていません。このミネルヴァ書房の松村正義著「金子堅太郎」は、金子の伝記としてはもちろん、明治期の日米関係や条約改正作業の一面を知る上でも大変参考になります。また、官僚としての金子の思いや姿勢が随所に描かれており、公職に在る方々やこれから公務員を目指す学生の皆さんには、是非一読を薦めたい本です。

さて、この会報は関東地区にお住まいの修猷卒で、住所が把握できている五千名近くの館友にお届けしています。東京修猷会では、六月の総会、年一回の会報発行のほか、毎月二木会(講演会)や春秋のゴルフ会などを催しており、詳しくはホームページ(http://www.shuyu.gr.jp)をご覧ください。

これらの活動は皆さんの会費で賄われていますが、この会費の納入者は残念ながら漸減傾向にございます。そこで出来るだけ多くの館友の皆さまに、東京修猷会運営へのご協力を、この機会にお願いする所存でございます。

修猷館は今年で創立233年目になります。ただ歴史が長いだけではなく、幾多の偉人、賢人を生んできた由を振り返り、改めて「修猷魂」に思いを致して、同窓会活動の伸展に努めてまいれる所存です。



東京修猷会10年活動スケジュール
二木会は6、8月を除く
毎月第二木曜日開催

1月 会報発行

2月 二木会 於：学士会館

3月 二木会 於：学士会館

4月 二木会(新人歓迎会) 於：学士会館

5月 二木会(新入歓迎会) 於：学士会館

6月 二木会 於：学士会館

7月 二木会 於：学士会館

8月 二木会 於：学士会館

9月 二木会 於：学士会館

10月 二木会 於：学士会館

11月 二木会 於：学士会館

12月 二木会 於：学士会館

未定 二木会 於：学士会館

12日(土) サロン・ド・修猷 於：学士会館

8日 二木会 於：学士会館

22日 秋季常任幹事会

12月 二木会 於：学士会館

10日 二木会 於：学士会館

二木会では、毎回各界で活躍の卒業生から貴重なお話をお聞かせいたします。皆様、奮ってご参加下さい。

平成26年度東京修猷会総会

「睦(むつみ)の力」修猷の絆

実行委員長 日野 慎二(昭和63年卒 睦(六三)会)

午後8時40分、総会終了。「長年企画である「恩師紹介」及びメイン企画「修猷女子道」を皆さまにお楽しみいただきました。まずは、恩師としてお招き致しました佐々木英治先生(国語)から、当時の懐かしいお話の数々をご披露頂きました。続いて、大塚宏子先生(家庭科)は、ご高年齢ということもありビデオレターでご登場頂きました。今年の2月に福岡でインタビューさせて頂いた映像を放映いたしました。

そして、メイン企画「修猷女子道」の映像が、司会者のナレーションと共に始まりました。修猷女子の各時代の映像と社会で活躍する修猷女子の方々のインタビューで綴られた映像です。館友の皆様は修猷女子の歩み、そして、社会で活躍する修猷女子の姿を、先輩方の思いをお伝えできたのではないかと感じました。

平成26年度東京修猷会総会は、6月13日金曜日に608名の館友の皆様にご参加を頂き、ホテルオークラ東京別館「アスコットホール」にて開催されました。

総会第一部では、大須賀頼彦会長(昭和37年卒)、伊藤哲朗副会長(昭和42年卒)が就任され、今年の総会は東京修猷会の節目となる会となりました。

次に、総会第二部では、我々、睦(六三)会(昭和63年卒)の幹事として、社会で活躍する修猷女子の皆さんが、東京修猷会総会の準備を開始したのは、3年前の平成23年2月のことでした。久々に会った同期や昔は面識が無かった同期、少し緊張の面持ちで初めての会合を開いたことを記憶しています。その翌月の東日本大震災後も互いに連絡を取り合い、その後も定期的に会合を開いて、少しずつ同期の絆が深まっていったと思います。色

んな事を試行錯誤しながら、フェイスブックでの総会の情宣活動、オリジナルグッズ等の新しい企画も生まれました。総会準備はたくさん時間を費やしましたが、修猷同期の絆を再発見する素晴らしい機会であったと思います。時間がない中で、同期が各役割を担い、自発的に担当の仕事を進めてくれたおかげで総会当日を迎えることができました。ありがとうございます。福岡での恩師インタビュー、修猷女子道の資料集めやインタビュー、映像の編集、修猷の練習、パンフレットやウェブの作成、当日の受付、来賓対応、司会、会場運営、会計、写真撮影等、数えきれない程、同期には助けてもらいました。何年経っても、これからも、同期は永遠の仲間だと感じました。

最後に、修猷女子道のインタビューや修猷舞等のご協力を頂いた先輩・後輩の皆様、たくさんアドバイスを頂きました。執行部の皆様、心より御礼を申し上げます。



気合いの入った修猷舞に会場のお客様も沸いた



壇上で挨拶する日野委員長と長谷川副委員長

東京修猷会総会を振り返って
東京修猷会顧問 甲畑 眞知子(前幹事長・昭和44年卒)

始めて耳にする総会企画テーマ「修猷女子道」とは何なのだろ？と興味を喚起させられ、楽しみに総会に参加しました。幹事学年(昭和63年卒)企画の2部と3部の構成は、実に丁寧な構成に練り上げられており、聞いて・知って・観て、共感と感動を得られた大変満足度の高いものでした。恩師からのお話は、お人柄に加え、修猷への熱い思い、生徒への深い愛情がエピソードとともに修猷魂の普遍性を語られ、参加した我々の心奥深くに響きました。

「修猷女子道」のテーマの下、

上げます。修猷の先輩・後輩の方々の出会いがあり、同期だけでなく、修猷の縦の絆を感じた素晴らしい時間でした。本日にありがとうございました。

素晴らしい機会であったと思えます。時間がない中で、同期が各役割を担い、自発的に担当の仕事を進めてくれたおかげで総会当日を迎えることができました。ありがとうございます。福岡での恩師インタビュー、修猷女子道の資料集めやインタビュー、映像の編集、修猷の練習、パンフレットやウェブの作成、当日の受付、来賓対応、司会、会場運営、会計、写真撮影等、数えきれない程、同期には助けてもらいました。何年経っても、これからも、同期は永遠の仲間だと感じました。

最後に、修猷女子道のインタビューや修猷舞等のご協力を頂いた先輩・後輩の皆様、たくさんアドバイスを頂きました。執行部の皆様、心より御礼を申し上げます。



昭和から平成に、総会幹事のたすきが手渡された



記念品完売の瞬間

「修猷女子道」を振り返る

企画担当 藤田 敦子(昭和63年卒 睦(六三)会)



去る六月の東京修猷会総会では学年メイン企画の「修猷女子道」を担当しました。その名の通り修猷女子にスポットを当てたこの企画は大きく二部構成となっており、第一部では初めて修猷に女子が入学した昭和24年から65年間の修猷女子の歴史を写真や資料をもとに辿りました。現役新聞部による「修猷新聞」を創刊号から三百号以上同期で手分けして読破し、レポートにまとめ、母校資料館で福岡の同期が集めた沢山の写真と共にご覧頂きました。今や八千余名の女子同窓生、それぞれの高校時代の共通点も違いも世代を超えて皆で共有し、また女子の系譜を川になぞらえ、細くも勢いよく流れる急流からゆったり堂々とした流れへとひとすじにつながっていることを確認しました。

第二部では昭和27年卒の大先輩から平成卒まで年齢や職業も様々な6人の女性にインタビューを行い、仕事や生き方、想いを聞きました。インタビューアアシスタント、カメラマンの3名体制で仕事場に伺い、それぞれ2時間、3時間に及ぶインタビューを、時間の都合上1分前後に編集してご覧頂きました。

いわゆるサクセスストーリーや成功者を讃える企画ではなく、実剛健の道を自分の足で歩む同窓女性たちの足跡と等身大の横顔をご覧頂きました。女性の社会への関わり方は変化し続けてきた道半ばですが、修猷女子道はいつの時代でも世の為人の為に自分のできることを静かに見極め役割を果たすこと、社会の趨勢

勢と自らの生き方は必ずしも一致しないけれど自分の考えをしっかりと持ち、志の為に努力すれば逆境さえも自分を強くしてくれました。

幹事が昭和卒から平成卒へバトンタッチするタイミング、折しも女性の活躍が期待される今、これからの東京修猷会の大きな担い手となる修猷女子をテーマにできたこと、多くの館友と同期の仲間と考え、作り上げたことは、家庭でも社会でも大きな役割を果たさねばならない今だからこそ意義深いものになりました。快くご協力いただいた先輩後輩諸氏にはこの場を借りて心より感謝申し上げます。



しおりと、オリジナルグッズの修猷ハンカチ

映像に纏められた「修猷女子列伝」では、それぞれの時代を代表した卒業生の多様な活躍をとおして、修猷女子の生きざまを、また、昔も今も変わらずに「女子である前に人として」いかなる環境に於いても前に進み、挑み、拓くしなやかな力の大切さを示してくれました。

さて、「修猷女子道」とは何か？一人ひとりが切り拓くそれぞれの道・人生の道筋のことと私なりに納得いたしました。修猷で知らずの内に培った心意気、気概は決して男子のみならず、女子にもあり、いやむしろ女子の方がたくましいかもと、会を通して思った程です。これから、あまたいる「星むすめ」は、修猷健児として互いのための道しるべになるよう輝き続けたいものです。

幹事学年「睦会」の皆様感謝しつつ。



修猷女子道のビデオに登場くださった方に壇上で記念品をお渡しした(筆者左端)

運動会の準備のようだった「修猷舞」練習
高岡 幹夫(平成元年卒)

約20年ぶりに東京修猷会総会に参加させていただきました。それは修猷時代の一学年先輩が幹事学年をつとめられ、その企画のひとつ「修猷舞」への参加をお声がけいただいたからです。運動会のエールで舞って以来でしたが、総会当日まで学年を越えて準備、練習することで、修猷館という共通項で結ばれた絆を感じる事が出来ました。まるでプチ運動会。卒業後20数年たち、皆さんが積み上げられたものの中にも当時と変わらぬ熱さ、まっすぐさに触れ、こんな先輩後輩と一緒にできる誇らし



卒年入り交じった修猷舞のメンバー(筆者右端)

俯瞰する力、求められる修猷目線

昭和60年卒 左三川(笛田) 郁子

修猷生は「上から目線」で語るのが得意である。「上から目線」という表現には「偉ぶっている」とか「生意気」などという負のイメージが付きものだが、修猷生の「上から目線」には悪意も嫌味もない。西のみ空を仰ぎながら、「皇国の為に、世の為に」と歌っている間に、物事を俯瞰する力が身に付くようである。同級生たちは皆、修猷のため、地元福岡のため、日本のために何ができるかを考えていた。

二度の渡英で見たもの

85年に修猷を卒業後、イギリスに渡った。当事、かの国では鉄の女サッチャー首相の強いリーダーシップの下で、電話、ガス、水道をはじめとする国有企業の民営化と金融システム改革が進められていた。他方、BBC放送は毎月のように、失業率やインフレ率が上がったと報じていた。失業もインフレも国民の生活が困窮していることを示すため、二つの数値を足し合わせて「悲惨指数(ミゼリー指数)」と呼ぶ。80年代半ばのイギリスは「悲惨」な状況から抜け出せずにいた。

多様性を求め受け入れる覚悟と心構え

ご近所さんたちが自宅の前にピカピカの車を停め、改築工事の看板を掲げる様子は驚きだった。住宅の数は以前と変わらないうちに、同じ駅を利用する人々の数は増えていた。失業もインフレも安定する一方で住宅価格は高騰し、イギリス経済は(後から振り返れば)バブルであった。ロンドンの街は一年を通じて、クリスマス・シーズンのような賑わいを見せていた。

「ウィンブルドン化」の衝撃
イギリスは、日本がバブル崩壊と金融システム不安に震撼している間に国を開き、ヒトの動き(労働者の移動)、モノの動き(貿易取引)、おカネの流れ(直接投資や証券投資)を活発にすることで見事に復活を遂げた。外国人労働者を受け入れた結果、ロンドンの金融街シティは他国籍の金融機関や非英国人が増えて、「ウィンブルドン現象」と揶揄されていた。毎年6月にロンドン郊外で開かれるテニスの国際選手権のように、「試合会場はイギリスだが、そこで闘う選手は外国人ばかり」という状況だったからだ。

人口減少への上から目線
日本は今後、地方を中心に深刻な人口減少に直面する。経済成長や年金・医療などの社会保障制度を支える現役世代の不足を補うために、国は女性の活用(活躍)を呼びかけている。高齢者の労働参加を促しても、若年層の大学進学率が高まり就業年齢が伸びたら、労働力人口の増加にはつながりにくい。その点、出産や育児で労働市場から退出

した女性を呼び戻す政策は、労働力の減少をある程度補うことができる。
イギリスは女性だけでなく、外国人の労働参加も容認した。私たちはオリンピックの馬術競技を観戦しながら、男女の選手が混在していることに違和感を覚えたりはしないが、例えば柔道が男女共通の競技になったらどうか。「ルールはこちらで決めますが、競技にはどなたでも参加できます」——そう言われても参加可能な競技会場を提供する心構えはできているか。多様性を求め、受け入れるには、覚悟と心構えも必要だ。

イギリスは経済規模も人口も日本の半分だが、超大国アメリカと大陸欧州との距離感をパランス良く保ちながら、「上から目線」を貫いてきた(ように私には見える)。FT紙には、アメリカの経済紙ウォール・ストリート・ジャーナルに比べて、世界各地の紛争や国際情勢を伝える記事が目立つ。世界のことには自分たちが一番よく知っているという自負があるのだろう。

日本が人口減少に直面しながらグローバル社会・経済において今のプレゼンスを維持するには、こうした「上から目線」がひとつの戦略となるかも知れない。私たち館友が得意とする分野である。



左三川(笛田) 郁子(さきかわ へいこ) 日本経済研究センター主任研究員。ロンドン大学(SOAS)卒業後、日本経済新聞社(金融部、経済部)、一橋大学修士、慶應大学博士課程単位取得退学。在英日本大使館勤務などを経て現職。専門は日本経済、金融論。20歳娘、10歳息子の母。

第33回東京修猷会 二木会ゴルフコンペ

2014年10月26日(日)

清々しい秋風の下、第34回二木会ゴルフコンペが開催されました。大須賀会長、土肥幹事長を始め、初参加者9名、女性5名の総勢38名が集結。千葉県の成田空港に隣接する名門「グリックサンドゴルフクラブ」にて開催されました。同ゴルフクラブ相談役松本陸彦様(昭和39年卒)のご厚意にての実現となりました。



次回、第35回コンペは2015年4月19日(日)、大須賀会長のご厚意により「富士小山ゴルフクラブ」にての開催を予定しております。奮ってのご参加を宜しくお願い致します。

優勝は西啓三郎様(昭和49年卒)、準優勝は小倉康介様(昭和63年卒)、3位は林啓一様(昭和62年卒)となりました。男子ベストは、クロス82で準優勝でも登場の小倉康介様、女子ベストは、クロス113の竹本エリ様(昭和62年卒)となりました。

去る9月20日、学士会館にて第8回サロン・ド・修猷が開催されました。今回のテーマは「愛すべき、博多の食文化」。ゲストは、らでいっしゅばーや顧問緒方大助氏(昭和54年卒)と、九州野菜の宅配ビジネスに携わる吉田貞信氏(平成7年卒)。食について熱く語れるお二人を迎え、第一部では博多野菜の特徴に触れながら、実際に博多野菜を使った当日メニューを味わって戴きました。また糸島にて農家を営む光安慶吾氏(平成9年卒)のその苦労とこだわりを捉えた取材映像を放映しました。第二部ではテーマを博多の食文化へと拡大。博多の思い出の料理について、「お雑煮」「ラーメン」との声があがる中、最後に出たのは「博多うどん」。博多は実はうどん発祥の地とも言われ、独特の麺の柔らかさはせつかな博多人がすぐに食べられるよう予め麺を茹でておいたからだとか、そんなトクの中、今回最大の目玉である「博多うどん」登場！

次回は、第35回コンペは2015年4月19日(日)、大須賀会長のご厚意により「富士小山ゴルフクラブ」にての開催を予定しております。奮ってのご参加を宜しくお願い致します。

Salon de 修猷

第8回 「愛すべき、博多の食文化」

「食は食文化の背景を理解することがとても大切、それが食育に繋がる」と。皆様には福岡の食材詰合せをお持ち帰り戴き、後日「がめ煮」の輪がフェイスブックに拡がりました。博多の食文化、万歳！



博多うどん！



左から緒方さん、吉田さん、モデレーター竹本(無二)の会

この企画を持ちまして、私も昭和62年卒無二の会の幹事学年としての、全ての行事を無事終えることが出来ました。執行部を始め多くの皆様のご協力に深く感謝申し上げます。ありがとうございました。

東京修猷会2015年度総会のご案内
 テーマ：～昭和から平成へ～「不易流行」平成幹事元年ガンガン行かんね～
 2015年6月12日(金) 18:00よりホテルオークラ東京 別館地下2階アスコットホール
 幹事学年：「ガンガン会(平成元年卒)」

二木会600回記念大会を終えて

東京修猷会 元副幹事長 松尾 隆広(昭和54年卒)



の二木会でお待ちしています。様々な分野で活躍されている幅広い年代の卒業生から時勢に合ったテーマでご講演いただき、毎回大変有意義な内容となっております。一人でも多くの館友の皆さんに参加いただき、この伝統ある二木会を是非皆さんと共に継続し育てていければと思います。

昭和29年から始まった二木会が60年の歳月を経て第600回を迎えるにあたり、二木会担当副幹事長としての記念すべき節目に出会えた喜びとこの伝統を守っていかねばいけない責任感を強く感じ、2年程前から企画を始めました。

この記念大会に相応しい講師として外部からの招聘も含め多くの候補者の名前が上がりましたが、中川前会長とご相談のうえ昭和40年卒業の経済同友会代表幹事で武田薬品工業株式会社代表取締役社長の長谷川剛史先輩をお願いすることになり、ご多忙を極める中快諾いただくことができました。

二木会の歴史はまさに東京修猷会の歴史

ある人間の使命として、常に一杯努力を続けて生きていくことが肝要であり、その中でも恵まれた能力を持つ館友の皆さんは、それを最大限に活用することができました。

第二木曜日に拘ったため平日の開催でしたが、記念講演会には300名を超える館友に出席いただきました。講演会では長

め、改めて東京修猷会を創り育てていただいた諸先輩方への感謝の気持ちを新たにしました。以前東京修猷会の副会長を務めて頂いた修猷館同窓会の久保田会長にも遠路駆けつけていただき、祝辞を頂戴しました。また箱島元会長から、この二木会の歴史はまさに東京修猷会の歴史であり、この素晴らしい伝統を是非継承し育てて欲しいとの祝辞をいただきました。

今回残念ながら参加いただけなかった館友の皆様も是非定例をお借りして御礼申し上げます。

この600回記念大会を無事に終えその後の総会をもって8年間務めた執行部を退任させていただきます。藤吉会長の時代から東京修猷会役員や執行部の皆様、そして館友の皆様を支えられ副幹事長としてお手伝いをさせていただきました。この場をお借りして御礼申し上げます。

注目されたことで、今年の創部90周年に弾みがつかうだろう。彼らの活躍は、ある程度予想できた。僕らの代は、正選手の中心だった。新チームになってすぐの全九州新人大会福岡県予選の準決勝で筑紫を破った。福岡県の高校ラグビーは長く東福岡と筑紫の2強時代が続いていたが、そこへ風穴を開けることができ、17季ぶりに九州大会に進むことができた。県決勝の東福岡戦や九州大会での長崎南山戦など、上の舞台でハイレベルな相手と戦った経験が今年の大躍進にも生きていけると思う。

ラグビー部躍進!!
今、早稲田のチームでも物おせず自分の意見が言えるのは、修猷でのラグビーをはじめ、運動会などの学校行事でいるんな経験があったからこそ。辛い大きなけがもなくセンターで頑張っている。一日も早くレギュラーになり、高校で果たせなかった日本一を成し遂げたい。

私たちがラグビー部は冬の大会で前大会から5つ順位を落とし、悔しい思いをしたので、次の大会でまずタックルなどの基礎プレーからやり直して、仲間と「悔しさを忘れるな」と声を掛け合いながら日々の練習に打ち込みました。4月末にあった福岡高校との定期戦では練習の成果を十分に発揮し、大勝することができ、良い状態で春の大会に臨みました。春の大会では、苦戦しながらも1つずつ駒を進めて、決勝では冬の大会で負けた小倉高校にリベンジすることができました。また、57年ぶりに県1位となり、九州大会に出場しました。九州大会では、決勝で負け、準優勝となりましたが、良い経験を積むことができました。最後の大会まで、他の3年生は受験勉強をしている中で、ラグビー部3年は誰もリタイヤすることなく、練習を行い、ベストを尽くします。

時代を超えて



東京修猷会を特徴づける二木会

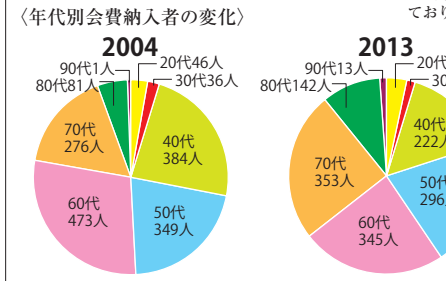
二木会のはじまりは、昭和29年(1954)年の懇談会形式の勉強会であった。現在は毎月第2木曜日に開催する館友による講演会と懇親会という形式をとっているが、こうした親睦と研鑽を兼ねた会合は独特で、他ではあまり例をみないという。東京修猷会規約にある「当支部は修猷館同窓生の親睦を図り、あわせて後進の誘掖(=導き援けること)に資することを目的とする」の一文が二木会のありようを基礎づける、東京修猷会の特徴だといえる。旧友との再会を喜ぶにとどまらず、この東京で時代を超えた館友たちと新たに出会い、学び合い、援け合い、親睦を深めていける東京修猷会。60年間、600回目の二木会を通過点とし、戦後の厳しい世相を館友の絆で乗り越えた先輩方の思いを、次の世代にも手渡していきたいものだ。(編集部)

*平成25年度東京修猷会総会を機に昭和62年卒(無二の会)によりまとめられた「東京修猷会の源流を探る」を参考にさせていただきました。

数字で見る東京修猷会

(5年間の会員数と会費納入状況)

年	会員数	会費納入率	会費納入者数	未納入者数
2009	4,524	37%	1,652	2,872
2010	4,540	37%	1,674	2,866
2011	4,702	33%	1,554	3,148
2012	4,817	35%	1,675	3,142
2013	4,690	31%	1,441	3,249



春風接人(補遺)

小田急江ノ島線が開通して間もない昭和5年、ソ連大使から帰任した広田は鶴沼に別荘を構えた。ほど近い藤沢橋郵便局にも「春風接人 弘毅」の扁額が飾られている。鶴沼に住んだ要人は多いが、広田ほど住人に親しまれた人物はなかったという。地元の相撲大会優勝旗も乞われて書いたというエピソードがある。「春風接人 以秋霜自爾」まさしくそのような方であったのであろう。(編集部)

後輩の活躍を刺激に
早稲田大学スポーツ科学部一年
ラグビー蹴球部 高橋 吾郎(平成26年卒)



ラグビー部として
ラグビー部主将 3年
柴尾 将希

修猷の絆は、

〈インタビュー〉海外で感じる修猷の絆 ワインの喜びを伝えて



ロンドンで19年間、ワイン・コンサルタントとして活躍中の松岡聖子さん(昭和54年卒)。長く海外で暮らし、働いてこそ強く感じる修猷の絆についてお話を伺った。

300年の伝統ある英国王室御用達のワイン商から声がかかり、20年近く勤務しました。現在独立し、個人のお客様のワインコレクションのアドバイザーや、ワインイベントの企画・講師、買い付けを行っています。

また、仕事の悩みを抱えていた際、香港で弁護士として活躍する柳祐子さん(昭和54年卒)に東京で20年ぶりに逢いました。共感できることが多く、最後には元気をもらって別れたものです。

「後輩へのメッセージがあればお願いします。」
「やりたいことが見つかった時、既に50%、後の50%は努力により夢は叶えられるものだと思います。」

「野球を始めたのは？」
西南学院中学に入ってからでした。中2、3のときには西南は強かった。修猷にも多くの優秀な選手が集まると聞いていて、「強いチームができる」と期待して入学しました。実際は部員が10人ぐらいしかいませんでした。

新人戦では部員不足で1人雇ったほど。僕らの時代には2回戦止まりでした。その頃、いろんなことに興味があって、生物部、軽音楽部、それから福岡の山岳会にも入っていました。野球では結果が出ませんでしたね。野球部が県大会決勝まで行ったのは、その2年後(昭和33年・夏の福岡大会、準優勝)でした。

現在の仕事内容を簡単に教えてください。趣味が高じて魅力的なワインが集まる英国へ足繁く通ううち、日本市場展開を試みていた

海外での仕事で、修猷のつながりを感じたことは？
それぞれの分野でプロフェッショナルとして活躍する同級生たちに助けられて、それが現在の仕事にも繋がっています。

前職で、ゼロから日本支社を立ち上げる時、格式ある老舗ゆえ細部の仕上がりまでこだわることの難しさに驚きました。その折、建築家の工藤和美さん(昭和54年卒)に多忙を極める中、イ

私は編入生で、運動会(応コン担当)をおして修猷生になれた気がしています。人と喜びや感動を共有できる素晴らしいことを教えてくれたのは修猷だったと思います。(取材・文 編集部)

「練習などでの思い出は？」
負けず嫌いでした。我々も練習すれば勝てると思って励んでいました。練習は授業が終わった時間だけ。ボールは10個ぐらいしかない時代です。それを縫い直して練習していました。

「永遠のライバルがいたと聞きました。」
池田英俊君でした。修猷の先輩に必ず言われたのは「池田にだけは負けるな」でした。福岡高から明治大でエース。私は立教大に進みました。御互いに卒業したときは、池田君が八幡製

「現役に求めることは？」
修猷館は文武両道です。武の方でも頑張っていて、私が生きている間に、ぜひ一度、甲子園に出場してもらいたいと思っています。(取材・文 編集部)

「多びす会」には『多びす会同好会』があり現在50名ほどの会員がいます。2014年の1年間、毎月第3土曜日に恵比寿駅近くのイデアビルの一室を対局場として、例会もしくは大会を行い、大会には20数名の、例会には10数名の会員がかけつけ、それぞれ日頃の研鑽で磨いた腕前を披露しています。

熊高戦は10数年前から続いており、福高戦はまだ歴史は浅く平成24年秋からです。福岡と大阪では古くから行われていたのに、東京でないのはおかしいとの双方の思いが実ったものです。東京、大阪の有志が出張応援に駆けつけることもあります。何れの対抗戦の勝敗はどっこいどっこいの接戦が続けております。

「福高戦や熊高戦では熱戦！女性・初心者も参加大歓迎」
多びす会同好会

「多びす会同好会」に参加ください。同好会幹事(昭和36年卒)080-1316-5509

「多びす会同好会」に参加ください。同好会幹事(昭和36年卒)080-1316-5509

「多びす会同好会」に参加ください。同好会幹事(昭和36年卒)080-1316-5509

「多びす会同好会」に参加ください。同好会幹事(昭和36年卒)080-1316-5509



熊高戦風景・於サンシャイン囲碁サロン

「多びす会同好会」に参加ください。同好会幹事(昭和36年卒)080-1316-5509

「多びす会同好会」に参加ください。同好会幹事(昭和36年卒)080-1316-5509

「多びす会同好会」に参加ください。同好会幹事(昭和36年卒)080-1316-5509

「多びす会同好会」に参加ください。同好会幹事(昭和36年卒)080-1316-5509

「多びす会同好会」に参加ください。同好会幹事(昭和36年卒)080-1316-5509

「多びす会同好会」に参加ください。同好会幹事(昭和36年卒)080-1316-5509

「多びす会同好会」に参加ください。同好会幹事(昭和36年卒)080-1316-5509



ベトナム現地スタッフ達と(筆者中央)

修猷魂FROMベトナム

本田 将大(平成10年卒)



「修猷魂」この卒業生であるという誇りは、社会人となってから様々な場面で一段と実感する。

私の勤務先は、東京に本社がある総合商社・双日(株)で、社員の出身地は全国津々浦々。しかし、社内には『修猷OB会』なるものがある。上は元社長から下は20代の若手まで、幅広い年齢層で構成されている。飲み会で先輩方が「もうかり」話で盛り上がるなか、「もうかり」を知らない私は興味深く話を聞いたものだ。

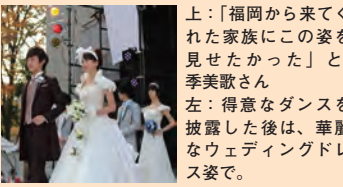
「修猷魂」なんと心強いことか！皆様が今後ベトナムにお越しになる場合はご連絡ください。私も修猷魂でサポートします！

「修猷魂」なんと心強いことか！皆様が今後ベトナムにお越しになる場合はご連絡ください。私も修猷魂でサポートします！

おめでとう ミス東大!



修猷女子が才色兼備の頂点を極めた。去る11月24日に開催された東大駒場祭でみごとミス東大の栄冠を勝ち取ったのは藤澤季美歌さん(平成26年卒)。現在、東京大学文系3類の1年生で、修猷館賞を手にした才媛だ。特技はダンス。実は、お母さんの品子さんも修猷OG(昭和55年卒)。地方出身の1年生で東京に知人も少ない季美歌さんを応援してほしいと呼びかけたところ、昭和55年卒を中心に多くの同好会友たちが会場に駆けつけた。「本当にみなさんのおかげです」と品子さん。季美歌さんの今後の活躍が楽しみです。



「福岡から来てくれた家族にこの姿を披露した」と、見せたかったと、左:得意なダンスを披露した後のウェディング姿。



(プロフィール) 修猷館出身の少ないプロ野球選手3人の中の1人。大洋(現DeNA)に所属し投手としてプロ通算83勝。オールスターにも3度出場した。引退後はコーチ、スカウト、寮長としてベ이스ターズ一筋50年在籍した。(茅ヶ崎の自宅にて)

農業成立の鍵は需要の喚起!

糸島就農奮戦記

光安 慶悟 (平成9年卒)

卒業後に、東京で広告営業をしていましたが、帰省。若い農業者が少なく存続が危ぶまれる日本の農業をなんとかしたいという思いが募り、29才のときに(6年前)就農いたしました。

農業に縁もゆかりもないものが農地を借りることは、難しいのですが、大変運よく、糸島という都市近郊でありながら、自然が豊かな場所の畑をお借りすることができました。2箇所600坪ほどのビニールハウスで、トマトのみにしぼって栽培しております。宮崎農業高校での研修

中食に食べたトマトがびっくりするくらいおいしかったのがその理由です。

何もないところから、手探りで始めてみたものの、自然現象への対応や機械の故障を中心に失敗の連続でした。

真冬に貯水槽に落ちたり、土砂崩れで入り口が埋まったり、スズメバチが倉庫に巣を作ったり、耕運機ごと田んぼに落ちたり、アナグマに荒らされたり、農業を減らしすぎて全滅したりです。

やってみて、思ったことは、新規就農者が他産業並みの収入を得ることの難しさでした。ほとんど産業として成立していないため、子育て世代には、難しい仕事になってしまっています。



農業サークル「緑の会」の活動の様子。収穫祭や、お祭りなど、地域交流の場を設けています。

夢の映画製作を故郷で実現

〜なつやすみの巨匠クラクアツツ

入江 信吾 (平成7年卒)

修猷卒の脚本家、という少々変わり種の私が自らプロデュースした映画『なつやすみの巨匠』が無事にクラクアツツを迎えました。

能古島に住む少年が父から譲り受けたビデオカメラで映画作りを熱中、初恋や友情を経験し、成長していくという物語です。

オール博多弁、子役は全員オーディションで選んだ地元の子たち。脇を固める大人キャストに



創りたいと思ったからです。現在の商業映画ではまずオリジナル企画は通りません。大半が有名な漫画やアニメを原作とした企画であり、そんな偏った状況に一石を投じようと立ち上がった次第です。

とはいえゼロから製作に着手するのは初めて。

自己資金だけでは到底足りず、途方に暮れていたところへOBでもある兄(平成2年卒)が繋いでくれたのが、自動車教習所での有名なマイマイ社長の三戸宗一郎先輩でした。兄とは同じ山岳部の親友だそうで、「入江の弟なら俺の弟も同然。力になるよ」と援助を快諾して下さいました。

また同窓会誌「菁莪」への寄稿も反響を呼び、OBの方が続々と支援を表明して下さいました。

同級生や後輩も夢の実現のため物心両面で支えてくれ、励みになりました。特にRKB「今日感テレビ」のディレクターを務める同級生の三浦良介君には早い時期から番組で採り上げてくれて非常に助かりました。

上は昭和31年卒の大先輩から下は現役の修猷館高校映画制作部員まで、まさに縦糸横糸みつしりと修猷人脈の編み込まれた作品になりました。

さすがと言うべきか、企業やマスコミや行政あらゆる分野で

空き家に息を吹き込み 付加価値を



江頭聖子さん(平成11年卒)

故郷・福岡に戻って株式会社「福岡リノベース」を設立。代表取締役として活躍している。今まさに福岡になかった賃貸住宅のリノベーション企画に加えて、「ここなら住んでみたい」と思わせるようなシェアハウスの企画、運営をし、1つの新しい流れを起している。

福岡に戻ってきたのは? 1年9か月ぐらいいなくなります。平成25年1月に戻ってきました。それまでは東京、福岡で仕事を

してました。修猷を卒業して、すぐに働き出しました。大学受験もせず、そのまま就職したことで皆さんには驚かれることが多いです。

リノベーションを手掛けるきっかけは? 父親が内職職人をしていました。父の仕事が小さい頃から見てきました。福岡に戻って、「現状回復」と呼ばれる白いクロスをただ張り替えていく父の仕事にまだ疑問を感じました。父は不動産会社からの指示通りの仕事をしていたのですが、これでは、

まず古い物件に借り手が付かないだろうなと思いました。貸し手は入居者を決めるためにお金をかけてやっていることが、無駄になってしまっています。何か付加価値を付けていかないと、借り手にも興味を持ってもらえないと感じていました。

そこから「福岡リノベース」設立。

初めてリノベーションを手がけた部屋の内覧会を開催したところ、思った以上の高評価をいただきました。自分でプロデュースするということは、東京で教

育プログラムを一緒に組み立てる仕事をしている時に学んだことが大きかったように思います。

シェアハウスのアイデアも豊富ですね。

私の場合は「コンセプト」を大切にしています。福岡は賃料も安いので、そこに住まないと得られない価値を提供できないと事業として成り立ちづらいと感じています。私自身、猫が好きで始まったシェアハウスです。猫好きな方が他にも多いのですが、飼うのはとてもハードですが、飼うのはとても多いのルが高いです。猫飼育可能な賃貸物件がそもそも少ないですし、一人暮らしだと面倒を見られるか、不安でなかなか飼えない人も多いです。そこで猫の面倒を一緒に見ることのできるシェアハウスを提案しました。募集をかける、すぐに入居希望者が集まったので、猫との暮らしの需要を確認しました。

他にもアイデアがありそうですよね?

英語漬けのシェアハウスのプロジェクトに関わらせていただ

福岡発!

地方創生論が喧しい昨今
ふるさと福岡から元気を届け



★リノベーションとは?
既存の建物を時代や利用者に合わせて改修すること。最近、福岡市内では築後30年を超える物件が増えてきた。江頭さんの仕事は、そんな物件に息を吹き込む。

★シェアハウスとは?
ひとつの住居に複数の住人が住み込むこと。運営業者が間にあって、初めは全く知らない者同士が共同で生活すること。

官兵衛との1年

黒田家と修猷

2014年、NHKで放映された大河ドラマ「軍師官兵衛」は福岡に一大ムーブメントを起した。前年末から様々なイベントが開催されて、修猷人も関わってきた。

森俊安さん(昭和63年卒)は福岡観光コンベンションビューローで広報・企画に携わってきた一人。1年以上の月日を重ねて多忙な日々を送り、「官兵衛ゆかりの地・福岡」をPRした。工夫を凝らした一つが福岡市と

ビュローで運用する「バーチャル時空散歩ツアー」だった。「専用のタブレット端末を手にとっただけで、デジタル技術で再現された福岡城を見ながらガイドが案内するものです」と説明する。

石村善悟さん(昭和42年卒)が代表取締役社長である株式会社石村萬盛堂では、博多バイマンじゅう「官兵衛の赤かぶと」を販売。文字通り、官兵衛の愛用した合子形兜(こうすなりかぶと)もあつた。5月2日には黒田家第16代当主である黒田長高さん夫妻を招待して、校内で記念植樹祭が執り行

わかれた。植えられた木は、枝垂れ桜の紅白一対となっている。折しも、江戸時代の藩校教育を考へる「第13回全国藩校サミット」が今年10月に福岡市で開催される。黒田藩藩校として修猷館同窓会事務局が中心となつて準備をすすめているところだという。(編集部)



タブレットをかざすと建物の姿が!



崇福寺(福岡市東区千代)内にある黒田家藩祖・官兵衛(如水)の墓。

伝統を未来につなぐ

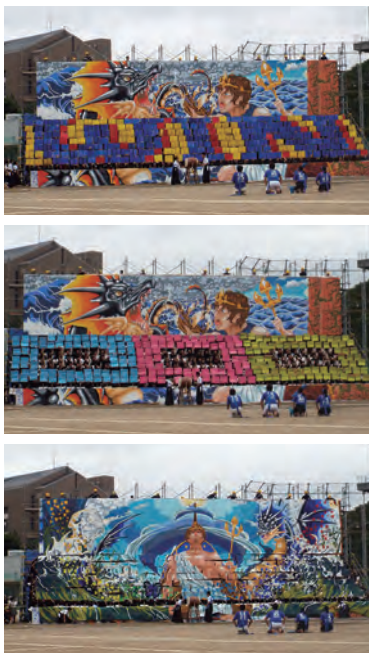
第六十七回修猷館大運動会 青ブロック応コン長 3年 中本 紗月

子どもの頃から修猷運動会、特に応援コンテストは身近なものだった。父が卒業生で応コン長だったこともあり、自宅には応コンスクラップ(人文字の図案集)や実物のパネルが置いてあり、過去の運動会映像もたくさんあった。修猷に入学して初めての運動会、応コン長が「目指す応コン」として、私達に一本の映像を見せた。父の応コンだった。体が震えたあの時の感覚は今も忘れない。そんな私が



運営と、各ブロック応コン長(ブルーが筆者)

三年になり、父と同じ青ブロックの応コン長になったことに、何か運命的なものを感じた。半世紀以上もの歴史を積み重ねて来た大運動会応援コンテスト。先輩方が長年に亘り創意工夫を重ねて完成させた応コンの技やノウハウは、すべて後輩達に継承されていると思っっている人は多い。しかし、実際には一部分しか継承されておらず、そのことが応コンの技術的なレベル低下を招いたと、私は考えていた。



また特別パネルとして手持ちパネルを別に作り、動きを強調した文字出しで観客を圧倒した(と思う)。上下のパネル操作ではなく、パネルが横に消えるという初めての試みだった。他にも応コン太鼓の見直しなど多くのことにチャレンジした。

そこで私達が目指したのは、『伝統を未来につなぐ応コン』。先輩方が築いてきた伝統の良い所は取り入れ、自分達のアイディアと組み合わせることで応コンの新しい形を作ることを目指した。

第一に、スクラップ(人文字図案)の見直し。パソコンによる

とさえあります。部としてのあり方について悩み、意見の衝突もありましたが、それも今では今回の結果を出すために必要だったと思えます。

登山競技は過去の結果の分析が非常に重要な競技です。今回の結果も過去の先輩方の努力が積み重なって初めて得られたものです。僕達もこれまでの経験や全国大会で受けた大きな刺激を後輩達に伝え、後輩達の力になれるように努めていきます。

修猷生 現役事情

部活通信

現役生の部活動はラグビー部の快挙ばかりではない。文に武にキラリと光る後輩達の活躍を一部紹介する。

山岳部

インハイ男女アベック出場

山岳部部長3年 窪田 寿来 僕達は今年、創部以来初となる男女でのインターハイ出場を果たし、男子14位、女子13位の成績を取りました。山岳部には珍しく40人近くの部員を有する僕たちですが、登山中は寝食を共にし合宿中は一週間近く続くこ

生物研究部

創部初の全国大会へ!

生物研究部3年 綾部 将典 今年度、創部以来初となる全

国大会出場を果たしました。研究テーマは、修猷館のイスノキ(マンサク科)にできるゴール(虫が樹液を吸う刺激に植物が反応して形成されたこぶ)について。資料館裏のイスノキで、ゴールの上にゴールが形成される二重ゴールが日本で初めて発見されたことから、二重ゴールの形成理由などについて考察しました。研究内容は勿論ですが、人前で発表する以上、プレゼンのスキルも不可欠と考え、一年間の大半をプレゼン練習に費やしました。全国大会では残念ながら結果を残せませんでした。昆虫学会への論文の投稿や発表会・大会を通して、人間的に大きく成長することが出来ました。

生徒海外派遣、初の西海岸へ

今年度の第17回生徒海外派遣は、7月16日から8日間、初のアメリカ西海岸(サンフランシスコ、サンノゼ、ロサンゼルス)で実施された。

参加者代表として3年の中山光君の感想をご紹介します。

私が今回の海外派遣で学んだことから主な点を4つ述べます。

1つ目はプレゼンテーション能力の重要性です。例えば、起

追いつめる傾向があります。しかし、インペーションが急速に加速する現代において、現状維持に満足してしまふことはありません。常に新しい時代を切り開くために挑戦している人だけが生き残っていくの

文化祭 空前のダンスブーム



表は成功。鈴木先生からも嬉しい評価をいただけて、なんと文化祭の有志で発表したらどうかという提案までいただいた。私たちは準備を始めた。鈴木須美子先生の授業から始まったダンス発表ということで、一学

努力の甲斐あって授業内発表は成功。鈴木先生からも嬉しい評価をいただけて、なんと文化祭の有志で発表したらどうかという提案までいただいた。私たちは準備を始めた。鈴木須美子先生の授業から始まったダンス発表ということで、一学

では無いでしょうか。3つ目は、お金は執着してはいけない、お金は夢をかなえるためのツールだという考えです。お金は自分の志を実現するために動かすもので、それ自体が目的となつてはいけません。また、アメリカではフィランソロピーの考えが根強く、成功したアメリカの先人たちの多くが、大学などに寄付していたことも印象的でした。

ました。これを糧とし、将来修猷の卒業生として社会に貢献できるように頑張っていきます。ご尽力くださったすべての方々に心から感謝しています。

- ◆サンフランシスコ、サンノゼ Intuitive Surgical / Apple Store / JAFCO VENTURES / Google本社 / Plug & Play / スタンフォード大学 / 日経新聞シリコンバレー支局
- ◆ロサンゼルス Japanese American Museum (全米日系人博物館) / LA 修猷会との懇親会 記念講演 ①永川文一氏(昭和36年卒) ②山口大輔氏(平成2年卒) / The Japan Foundation(国際交流基金) / 南カリフォルニア大学 / California Science Center / HONDA North America



今回の海外派遣の西海岸での受け入れのために奔走してくださった、LA 駐日大使へのプレゼンテーション、修猷会の先輩方と記念撮影



スタンフォード大学では、ルース前駐日大使へのプレゼンテーション、ディスカッションをおこなった

着任のご挨拶 備えあれば憂いなしの一年に

東京修猷会副会長 伊藤 哲朗 (昭和42年卒)



の経験がなかったため、驚いて「地震だ!」と叫ぶと、姉は「これは大したことはないわ、これくらいしょっちゅうあるわよ。」と平気な顔でいたことにまた驚いたものです。

しかし、その後の阪神・淡路大震災や四年前の東日本大震災を経験し、その対応に当たる仕事をしていく中で、「これは大したことではない」とはともいえない事態に何度も遭遇することとなりました。とりわけ、東日本大震災を起こした地震は、マグニチュード9.0という史上稀にみる巨大地震であり、この地震をきっかけに今後30~40年の内に、マグニチュード7クラスあるいはそれ以上の地震が日本列島周辺で5~6個発生するであろうと言われているようになりまし

た。今や、我が国は地震の活動期に入ったと言っても良いよう

です。とりわけ東京では首都直下地震の危険性が高まっており、これに備えての対策を急がなくてはなりません。地震の規模にも

よりませんが、首都直下地震が発生すれば同時多発的な被害の発生により、警察、消防、自衛隊や自治体等の救援はほとんど手が回らず、いわゆる公助は期待でき

ないでしょう。電気、水、ガス、通信、交通が長期間途絶えた中、各人はそれぞれ自助により生き

延びることを余儀なくされることと思

います。しかし、それよりもまず、地震の第一撃による被害を避けなければなりません。

生き延びるのはその後のことです。阪神・淡路大震災では、多くの若い20代の方が被害に遭

りましたが、これは、耐震性のない古い住居に住んでおられた方が多かったからと言われてい

ます。

東京修猷会の皆様、特に東京

に来て間もない若い方に申し上げたいのは、首都直下地震に備えて、耐震性のある建物、そして、大火災になりにくい地域に住んで下さい。加えて食糧の備蓄など地震後も生き延びる備えをして下さいということ

です。新年に当たり、今年をそのスタートの年にしていただきたいと思

います。なぜなら、まさに「備えあれば憂いなし」なのです

から。

昭和41年卒 学年便り

昭和41年卒東京よいい会

は、毎年11月末に60余名の会友を集めて忘年会を開催している他、東京修猷会総会後の「夏の陣」・春秋のゴルフ大会、親爺バンド「ニューヤングナイツ」の公演等、毎年多彩な催しを開催して盛り上がっています。

さて、今春のゴルフコンペでは担当幹事の発案でコンペと同時間催で箱根修学旅行を企画したところ、関東はもとより福岡や関西、中京の同志を含めて総勢36名の仲間が参加。

3月16日(日)箱根湯本駅に集合し、ゴルフ組は北郷幹事を筆頭に「小田原湯本CC」に向かい、女性を中心とした修学旅行満喫組9名は松浦隊長の指揮で箱根漫遊に出発しました。当日

は幸い晴天ではありましたが風が強く、ゴルフ組も苦労が多かったようですが、旅行組も一部のルート変更、見学中止等余儀なくされ、予定通りにはいかなかったものの全員無事当日の旅籠である老舗「湯本富士屋ホテル」に夕方帰着となりました。

箱根の温泉でゆっくりと体を清めてゴルフコンペ表彰式も兼ねた大宴会が6時から始まり、遙々博多から出掛けてくれた黒

春祭り!箱根熟年修学旅行記

宮さんや藤島さん等女性軍4名に感謝状とお土産が手渡されました。また、ゴルフの賞品には懐かしのセーラー服やティシャツ、タオルなどの六光星グッズも登場しました。宴会後も「友達方より来る」久しぶりの再会に夜遅くまで話は尽きなかったよう

です。

明けて翌17日(月)、修学旅行組は都心に戻って増上寺、築地本願寺を経てやっぱりここだけ



河野 豊・安田 修之助

執行部紹介



中川新副幹事長(昭和61年卒)卒業時二百周年だったこともあり、殊のほか修猷館への思いが強い六一会の中川美穂です。

この度、東京修猷会執行部副幹事長を拝命し、主に会報を担当させて頂きます。

長い歴史と華麗な人脈を誇り、中央に雄飛する館友が集う我が東京修猷会! 近年は女性や学生の参加も増え、世代間の交流も盛んです。更に多くの館友の声が届き、笑顔で集える同窓会となるよう、微力ながらも尽力して参ります。

ご指導ご鞭撻の程宜しくお願い申し上げます。

編集後記

昭和最後の63年卒は会報でも総会と同じ「睦(むつみ)の力」修猷の絆をテーマとし、多くの世代の方にご登場いただくこと、館友同士の「つながり」にスポットを当てること、この素晴らしいつながりを生む東京修猷会が平成卒世代に受け継がれ発展していくことを意識して編集いたしました。

また、諸先輩のおかげで新春とともに届く会報の表紙にふさわしい言葉をお届けできたことが嬉しく、感に堪えません。私たちがそのようでありたい。多忙なかご寄稿、ご協力くださいました館友のみなさま、修猷館の先生方、心より御礼申し上げます。

2014年度寄付金

2013年11月1日から2014年10月31日までに多数の皆様からご寄付いただきました。ありがとうございました。お礼の意味を込めてお名前を掲載させていただきます。(敬称略・卒年別)

また、年会費の納入をまだ済まされていない方は、振替用紙にて郵便局やコンビニからご送金くださるようお願い申し上げます。詳細は同封の案内書をご覧ください。

00170-6-172892 東京修猷会事務局

- 修猷館同窓会、近畿修猷会、中京修猷会、(館長)奥山 訓近、(昭9)富田 明德、(昭12)宮川 一二、(昭15)明石 隆次、(昭17)安藤 雄三、(昭19)田尻 重彦、毛利 昂志、(昭20 (4))田中 庸夫、野上 三男、(昭20 (5))尾島 成美、(昭21)神田 孝道、(昭22)伊藤 輝夫、増崎 昭夫、(昭23)大西 勇、田尻 利重、柳 泰行、(昭24)安藏 復也、(昭25)山本 義治、辻 昌美、(昭26)常岡 宏、太田 進、中村 道生、藤吉 敏生、廣瀬 貞雄、(昭27)金田 久仁彦、福田 純也、和栗 真次郎、(昭28)児玉 黎子、川上 純司、萩原 敬一、(昭29)村越 登、(昭30)田 弘、堤 正、田中 栄次郎、(昭31)影山 滋、高崎 洋一、村田 和夫、中村 保夫、南方 安智、箱島 信一、(昭32)井上 智晴、鳥居 健太、平野 熙幸、林 克己、和田 聿生、國分 英臣、(昭33)寺澤 美和子、大西 正俊、米倉 實、(昭34)安田 泰二、岩田 龍一郎、行武 賢一、讚井 邦夫、服部 富美子、(昭35)伊藤 洋子、可児 晋、江川 清、今村 宏明、小野 勝利、(昭36)安藤 誠四郎、倉成 洋三、太田 裕、中島 成之、土井 高夫、浜地 康彦、(昭37)大須賀 頼彦、(昭38)井上 誠、上田 茂、渡辺 紀大、(昭39)貝島 資邦、久保田 康史、松本 睦彦、清田 瞭、(昭40)井上 浩、遠山 昌利、山形 紀明、泉 和雄、大原 弥生、棚町 精子、中嶋 安彬、由良 範泰、(昭41)安田 修之助、恒松 芳一、高尾 義行、樋口 孝雄、有山 賢良、(昭42)溝上 雅史、(昭43)伊豆 安生、宮地 徳文、(昭44)安川 裕行、伊佐 裕、横田 勝介、甲畑 真知子、坂井 真知子、川崎 宗二、(昭45)本田 由紀子、(昭46)栗山 英俊、土肥 研一、(昭47)岩永 丈哉、塚本 幸一、(昭49)井手 富士雄、橋村 秀喜、古森 光一郎、本庄 英智、(昭50)野中 哲昌、(昭51)油田 哲、(昭54)中原 誠也、(昭55)吉田 聡、(昭56)田中 昭人、矢野 奈保子、(昭57)光宗 信吉、(昭58)井手 慶祐、(昭59)服部 豊、(昭62)田尻 公一、(昭43)学年

2014年 二木会

- 第598回 H26.1 『なぜ? & どうなる? 2020年東京五輪』
松瀬 学氏 (昭和54年卒)
ノンフィクションライター
- 第599回 H26.2 『ソニーでの挑戦』
河野 弘氏 (昭和56年卒)
ソニーマーケティング(株)代表取締役執行役員社長
- 第600回記念 H26.3 『日本の未来への提言』
長谷川 閑史氏 (昭和40年卒)
経済同友会代表幹事・武田薬品工(株)代表取締役社長
- 第601回 H26.4 『総理官邸から見た我が国の危機管理 ~3・11東日本大震災と原子力発電所の事故を経験して~』
伊藤 哲朗氏 (昭和42年卒)
元警視總監・内閣危機管理監・内閣官房参与
- 第602回 H26.5 『私とお菓子人生』
三嶋 隆夫氏 (昭和38年卒)
福岡洋菓子店「フランス菓子16区」社長
(厚生労働省 平成19年度「現代の名工」)
- 第603回 H26.7 『宇宙を支える(国際宇宙ステーションのフライトディレクターとして)』
東覚 芳夫氏 (昭和62年卒)
JAXA 有人宇宙ミッション本部
有人宇宙技術センター主幹開発員 (技術領域リーダー)
- 第604回 H26.9 『愛すべき、博多の食文化』
第8回Salon de 修猷
緒方 大助氏 (昭和54年卒)らでいっしゅぼーや株式会社社長
吉田 貞信氏 (平成7年卒)九州野菜・食材の宅配サービス「mamagocoro」
- 第605回 H26.10 『ダムは無駄か?』
田代 民治氏 (昭和42年卒)
鹿島建設(株)代表取締役副社長
- 第606回 H26.11 『ミクロの世界の3体問題へのいざない ~私はこうして研究者になった~』
肥山 詠美子氏 (平成元年卒)
理化学研究所准主任研究員、2013年第33回猿橋賞受賞
忘年会 ※肩書・所属は講演時のもの

東京修猷会 URL <http://www.shuyu.gr.jp>

昭和63年卒

会報編集担当一同